

1. 調査報告概要表

全体を通して(※このホームの優れている点、独自に工夫している点など)		分野・領域	項目数	「できている」項目数
				外部評価
1年前にグループホームとして新設された施設は広々として明るく、バリアフリーが行き届いて設備面は充実している。外庭の菜園では入居者が畑仕事を楽しみ、収穫した野菜を食事に取り入れている。職員は意欲的で、ケアサービス、生活支援ともによく取り組んでいる。経営側は職員教育に非常に熱心で、現場の意見を介護計画や運営面に活かそうと、ミーティングの方法を工夫し、効果を発揮している。外へ出たがらない入居者には、画一的な生活リズムに偏りがちなため、ホーム側も改善しようと努力されている。今後、入居者が一層ホームに馴染み、意欲的に外へ出かけられるように、職員の工夫や力量に期待したい。				
分野	特記事項(※優先順位の高い要改善点について)			
I	運営理念について、ホーム内での掲示は行き届き、職員全体の理解も十分徹底されている。しかし、せっかくの取り組み点が地域に伝わっていないことから、地域への啓発に積極的に取り組むことが促される。	I 運営理念		
運営理念		① 運営理念	4項目	3
		II 生活空間づくり		
II	リビングや廊下は広々として、室外も外庭に面してウッドデッキが設置されるなど施設面で非常に恵まれているにもかかわらず、せっかくの空間に椅子やベンチが用意されていない。このため、入居者はダイニングテーブルで食事をとった後、同じ場所に座ったまま日中を過ごしていた。恵まれた空間を活用して入居者の行動範囲を広げ、多様化させる工夫が望まれる。	② 家庭的な生活環境づくり	4項目	3
生活空間づくり		③ 心身の状態に合わせた生活空間づくり	6項目	6
		III ケアサービス		
III	入居者一人ひとりの特徴を踏まえ介護計画を作成しており、入居者一人ひとりが自由に当たり前の生活を送ることができるよう取り組んでいるが、玄関の内側から入居者が自由にドアを開けることのできる方法が確立できていない。安全面の追求を大切にしつつ、職員の配置の工夫等によって、入居者を見守りながら自由な暮らしを支える取組みが期待される。	④ ケアマネジメント	7項目	7
ケアサービス		⑤ 介護の基本の実行	8項目	7
		⑥ 日常生活行為の支援	10項目	10
		⑦ 生活支援	2項目	2
		⑧ 医療・健康支援	9項目	7
		⑨ 地域生活	1項目	1
		⑩ 家族との交流支援	1項目	1
		IV 運営体制		
IV	職員の初期教育は徹底されている。さらに、個々の力量や経験に応じ定期的に研修を積んでいけるよう、組織としての体制づくりが期待される。開設間もないということもあって、家族との交流は始まったばかりだが、ホームのイベントを連絡するなど、相互交流を深めることが必要と思われる。近所づきあいが希薄な新興住宅地という土地柄であるが、イベントに招待したり、自治会の行事に参加するなどして、地域との信頼関係を構築することが重要と思われる。ホームの機能を地域に還元したいとの熱意を持っているので、実現に向けての取り組みが期待される。	⑪ 内部の運営体制	10項目	9
運営体制		⑫ 情報・相談・苦情	2項目	2
		⑬ ホームと家族との交流	3項目	2
		⑭ ホームと地域との交流	4項目	1

2. 調査報告書

項目番号	項目	できている	要改善	評価不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
	I 運営理念 1. 運営理念の明確化					
1	1 ○理念の具体化及び運営理念の共有 管理者は、認知症高齢者グループホーム(以下「グループホーム」という。)に関わる法令の意義を理解しており、これを自らが所属するグループホーム(以下「ホーム」という。)の運営上の方針や目標等に具体化し、介護従業者に日常的に話している。	○			入居者一人ひとりの個性を大切に、笑顔で楽しみのある家庭的生活の提供をホームの具体的目標に掲げ、職員の初期教育を徹底し、日常のケアに結びつけている。パートも含めすべての職員が目標をよく理解し、「笑顔が大切」「利用者に会いたい気持ち」を忘れないケアを実践している。	
2	3 ○運営理念の明示 ホームの運営理念を利用案内時の説明書及びホームの見やすいところに明示し、かつ、入居者及びその家族等に分かりやすく説明している。	○			玄関入り口付近の見やすい位置、職員事務所内に掲示されているほか、重要事項説明書等でもわかりやすい言葉で説明されている。	
3	4 ○権利・義務の明示 利用者の権利・義務を利用案内時の説明書及び契約書に分かりやすく示し、かつ、入居者及びその家族等に説明し同意を得ている。	○			契約書中にわかりやすく明記されており、家族にも説明され、同意を得ている。	
	2. 運営理念の啓発					
4	5 ○運営理念の啓発 ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう、地域に対する運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。(ホームの説明会、ホーム便り等)		○		地域への啓発の大切さについて管理者はよく理解している。開設からこれまでの1年、内部の運営体制を軌道にのせることに集中してきたため、地域に向けた活動はこれからの課題。	近くホーム便りを発行すべく準備中で、地元自治会や青年会議所等へ配布し、理念の啓発に積極的に取り組むとしている。
運営理念 4項目中 計		3	1	0		
	II 生活空間づくり 1. 家庭的な生活空間づくり					
5	6 ○気軽に入れる玄関まわり等の配慮 違和感や威圧感を感じさせず、入居者や家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいよう、玄関まわりや建物の周囲に、家庭的な雰囲気づくりの配慮をしている。(玄関まわりに草花を植える、親しみやすい表札をかける等)	○			玄関周りをウッドデッキに鉢植えの草花が飾られ、木製の親しみやすい表札が掛けられている。玄関は自動ドアで、外から自由に入れるようになっている。	
6	7 ○家庭的な共用空間づくり 共用の生活空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、いずれも家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的である。	○			リビングには、入居者が作った折り紙の作品が多数飾られており、あたたかい雰囲気。開設後間もない新しいホームなので、今後、入居者と職員が共に生活を重ねる中で、ホーム独自の雰囲気作りが形成されていくと思われる。	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
7	8	○共用空間における居場所の確保 共用空間の中に、入居者が一人になったり気のあった入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。		○		昼食後、入居者はリビングで歓談したりお茶を飲んでくつろいでいた。しかし別の場所でも一人掛けの椅子に座ってゆったりしたり、気の合った仲間同士で歓談できるように、椅子の数・配置を工夫すると、なお一層居心地がよくなると期待される。	庭に面した広々としたウッドデッキなど魅力的な空間が随所にあるので、ベンチや小テーブルを置くなどの工夫があれば、入居者の行動も一層広がると思われる。
8	9	○入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。		○		自宅で使っていた古いたんすを置いたり、若い頃登った山の写真を壁に飾ったり、入居者にとって使い慣れた物を居室に持ち込んでもらうことを積極的に支援している。	
家庭的な生活環境づくり 4項目中 計			3	1	0		
2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり							
9	11	○身体機能の低下を補う配慮 入居者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。(すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等)		○		廊下やトイレなど、要所に手すりがあり、洗面台は車椅子の方が利用しやすいよう、台の下にスペースをとるなど配慮が行き届いている。トイレの高さが若干高めだが、対策を検討している。	
10	13	○場所間違い等の防止策 職員は、入居者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をこわさずに、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。(トイレや部屋の目印等)		○		トイレや風呂、各居室に、明るい雰囲気のイラストが書かれた手作りの表示が貼られており、入居者はどの場所もよく理解し、混乱はおきていない。	
11	14	○音の大きさや光の強さに対する配慮 入居者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮している。(テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し等)		○		職員はみな、ゆったりと自然で家族に話しかけるような口調だった。テレビの音量も低めに設定されていた。リビングや居室は窓が多く、明るいながらもカーテンで適度な光に保たれ、照明も心地よい明るさである。	
12	15	○換気・空調の配慮 気になる臭いや空気よどみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切に行っている。		○		全室に空気清浄機が設置され、換気は行き届いていた。空調も冷やし過ぎず暖め過ぎず、適度な温度に保たれていた。	
13	17	○時の見当識への配慮 見やすく、馴染みやすい時計や暦を、目につくところに設置している。		○		大きなカレンダーと時計がリビングの壁に掲げられ、ダイニングテーブルにも日付と曜日を毎日入れ替える木製日めくりカレンダーが置かれて、入居者は「今日は何曜日だっけ」「日曜日だよ」などと会話している。	
14	18	○活動意欲を触発する物品の用意 入居者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。(ほうき、たらい、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品等)		○		外庭に菜園の道具を用意し、入居者がいつでも外で、花の手入れや畑仕事をできるようにしている。室内では、折り紙や裁縫道具を用意し、ほつれた衣服を自身で繕う入居者もいる。歌が好きな人のために歌詞カードを用意し、いつでも歌を楽しめるようにしている。	
心身の状態に合わせた生活空間づくり 6項目中 計			6	0	0		

項目番号	項目		できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
	外部	自己					
		Ⅲ ケアサービス 1. ケアマネジメント					
15	20	○個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、入居者主体の目標を立て、入居者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。	○			入居時、本人の生活歴や経験、住み慣れた地域、生活、食べ物の嗜好や趣味などについてアセスメントを行い、一人ひとりの特徴を踏まえ、長期・短期の目標をたてた介護計画を作成している。	
16	21	○介護計画の職員間での共有 介護計画を、すべての職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。	○			すべての職員が全入居者の介護計画に目を通しており、月一回の職員ミーティングのとき、職員の気づきや疑問を積極的に出してもらい、ケアに生かそうという前向きな取り組みがなされている。	
17	22	○介護計画への入居者・家族の意見の反映 介護計画を、入居者や家族とも相談しながら作成している。	○			介護計画は家族にも十分に説明し、家族の要望も取り入れて作成している。	
18	23	○介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時見直しを行っている。	○			三ヶ月に一回の見直しを行っている。	
19	24	○個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。	○			ケース記録、健康管理票、連絡ノート、介護日誌等を日々記録し、一人ひとりの特徴や変化を詳細に記録、保管している。	
20	25	○確実な申し送り・情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実にし、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。	○			職員教育に力を入れており、すべての職員が勤務前に必ず事務所に立ち寄り、介護日誌や連絡ノート等に目を通すことを徹底している。	
21	26	○チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。	○			月一回のミーティングでは、冒頭に職員側から気づきや課題を出してもらい、3時間ほどの時間をとって丁寧な意見交換を行っている。その結果を日々のケアに生かすとともに、翌月には結果がどうだったかのフォローも行っている。	
ケアマネジメント 7項目中 計			7	0	0		

項目番号	外部	自己	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
			2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行					
22	27		○入居者一人ひとりの尊重 職員は、常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。(入居者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等)	○			すべての職員が、家庭的で親しみやすい雰囲気を保ちながら、入居者を尊重した態度を保っている。トイレの介助の際の声かけも、他の入居者に聞こえないようなやり方で、さりげない介助を行っている。	
23	28		○職員の穏やかな態度 職員の言葉かけや態度はゆったりしており、やさしい雰囲気で見守っている。	○			みな穏やかでゆったりしており、明るく親しみやすい雰囲気で見守っている。	
24	30		○入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア 入居者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。	○			入所時のアセスメントで一人ひとりの趣味や経験を把握し、農家の方は菜園で畑仕事をしたり、踊りが好きな人のためにみんなで盆踊りをする機会をつくったり、調理や裁縫が好きな人には自分で取り組むことのできる場を提供している。	
25	32		○入居者のペースの尊重 職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。	○			午前中は体操や計算をしたり、午後は買い物や散歩など、ある程度のプログラムをつくっているものの、気が向かない入居者を無理に誘うことはせず、個々が自分のペースで暮らせるように配慮している。	
26	33		○入居者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切にし、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)	○			買い物では入居者本人に選んでもらうよう心がけており、入居者が「アンパン買ってきてくれ」と職員に頼んできたなら、「一緒に行こう」と外へ誘い、自分で好きなパンを選んでもらうなど、なるべく外へ連れ出し、自分で選ぶ場面作りを心にかけている。	
27	35		○一人で行えることへの配慮 自立支援を図るために、入居者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○			食事の後、自発的に食器を台所へ運んで洗ったり、裁縫が得意な人は自分で繕い、洗濯物をたたんだりするなど、職員が見守りながら入居者はさまざまなことに取り組んでいる。	
28	37		○身体拘束のないケアの実践 身体拘束は行わないということすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。	○			身体拘束は行わないことについて全職員が認識し、実践している。	
29	38		○鍵をかけない工夫 入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族に説明している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)		○		ホームでは利用者の安全を重視しているため、利用者が外に出たいときは職員に声をかけてもらってドアを開け、一緒に外にできるようにしている。自由な出入りを制限しているのではないが、外にでる時は、壁の高い場所に設置されている開閉ボタンを職員が押してドアを開ける必要がある。外からは自由に入ることができる。	入居者が出ていく気配を見落とさないような職員側の見守りや連携プレーによって、現状を改善する余地はあるので、自由な出入りをできる限り制限しない一層の工夫が求められる。
介護の基本の実行 8項目中 計				7	1	0		

項目番号	項目		できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
	外部	自己					
		(2)日常生活行為の支援 1) 食事					
30	43	○馴染みの食器の使用 家庭的な食器を使っており、茶碗や湯呑み、箸等は、入居者一人ひとりが使い慣れたものになっている。	○			入居者も職員も、家庭的な陶器の茶碗や湯呑みを使っている。	
31	44	○入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。	○			魚の煮付け、青菜、旬の野菜を使った味噌汁はおいしく、家庭的な味がした。日々の献立は担当職員と入居者が相談して決め、二日に一回の買い物も一緒に出かけている。入居者の好き嫌い・禁止食などがわかる一覧表を冷蔵庫に貼り、献立作りに生かしている。	
32	45	○個別の栄養摂取状況の把握 入居者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおそ把握している。	○			入居者全員のカロリー計算までは行っていないが、医師から特に注意が必要との指示を受けた入居者については、食事の摂取量の記録、水分摂取量の確認を行い、注意している。	
33	47	○食事を楽しむことのできる支援 職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。	○			職員も一緒にテーブルにつき、同じメニューで会話を楽しみながら食事をとっている。サポートが必要な入居者については、本人のペースにあわせ、ゆっくり介助を行っている。	
		2) 排泄					
34	48	○排泄パターンに応じた個別の排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	○			排泄チェック表を通じて個々の排泄パターンを把握し、なるべく本人ができるよう、誘導や声かけを行っている。おむつをしている人はいない。	
35	50	○排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	○			排泄の介助の際は、他の入居者に聞かれないように小声で話すなど配慮している。	
		3) 入浴					
36	53	○入居者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援 入居者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ、回数等)	○			入浴時間は、午後4時～6時頃まで、さらに夕食をはさんで午後6時半～8時半頃までとっており、入居者が希望に応じてゆったり入れるようにしている。全員が毎日入っている。	
		4) 整容					
37	56	○理美容院の利用支援 入居者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)	○			希望する入居者は外の理美容院でカットし、外へ出たがらない入居者については理美容院に出張してもらったりなどしている。	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
38	57	○プライドを大切にした整容の支援 整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○			すべての入居者がみだしなみよく、髪も衣服も整っていた。	
		5) 睡眠・休息					
39	60	○安眠の支援 入居者一人ひとりの睡眠の 패턴を把握し、夜眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通じた安眠策を取っている。	○			体操や散歩、買い物などを通じて生活リズムを作り、安眠を支援している。入居当初は夜間の眠りが浅く、頻りにトイレに行く人もいたが、現在はほとんどの入居者がよく眠れている。	
日常生活行為の支援 10項目中 計			10	0	0		
		(3) 生活支援					
40	64	○金銭管理の支援 入居者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。	○			金銭管理ができる入居者は1名のみで、他は家族からおこづかい程度分を渡され、買い物のにきに使っている。ホーム側が金銭を預かっている入居者は、買い物へ行ったときにお財布を渡し、職員が見守りながらなるべく自分で支払ってもらうようになっている。	
		(4) ホーム内生活拡充支援					
41	66	○ホーム内の役割・楽しみごとの支援 ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)	○			食器洗いや洗濯物たたみができる人は職員と一緒にやれるようにしたり、利用者の誕生会にはみなでバースデー・ケーキを手作りしたり、さまざまな場面を用意して、利用者が日々の生活の中から楽しみごとを見つけられるよう、心をくだしている。	
生活支援 2項目中 計			2	0	0		
		(5) 医療機関の受診等の支援					
42	68	○医療関係者への相談 心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健婦、看護婦等)	○			地元で協力医療機関を確保し、利用している。看護師の常勤職員が1名いる。	
43	73	○早期退院に向けた医療機関との連携 入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。	○			入居者が入院したケースはまだないが、今後、そのような事態が発生した場合、早期退院に向けた対応をとりたいとのことだった。	
44	74	○定期健康診断の支援 年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。	○			開設してまだ1年ということもあって、定期健康診断を受ける体制は整っていない。今後、年に一度は健康診断を受けられるよう準備している。	年に一度は健康診断を受けられるようにすることが促される。

項目番号	項目		できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
	外部	自己					
		(6)心身の機能回復に向けた支援					
45	76	○身体機能の維持 認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等)を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。	○			二日に一回、買い物へ入居者を誘って出かけている。外庭に菜園を作り、ウッドデッキに園芸用品を揃えるなどして、できる限り外で体を動かして過ごせるよう配慮している。外へ出たがらない入居者には、気持ちを尊重しつつもなるべく外へ出る機会をつくるよう心をくわしている。	
		(7)入居者同士の交流支援					
46	78	○トラブルへの対応 職員は、入居者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の入居者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○			入居者同士のちょっとした言い争いはたまにみられるが、その都度、職員が入って仲裁したり、席替えをするなどして解決している。	
		(8)健康管理					
47	80	○口腔内の清潔保持 入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○			毎朝・夕、一日に二回、口腔ケアを行っている。	
48	83	○服薬の支援 職員は、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○			すべての入居者の薬について、その種類・効用・副作用等をファイルし、職員も把握している。一人ひとりが確実に服薬できるよう、職員は入居者が薬を飲み終わるまで見守り、確認している。	
49	85	○緊急時の手当 入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)		○		看護師の職員がミーティング時に、他の職員に応急手当の方法を教えたり、職員からの質問に答えたりしている。救急救命講習を受けたことのある職員もいるが、全職員が研修を定期的に受ける体制にはなっていない。	全職員が研修を受けられる体制作りが課題と思われる。
50	86	○感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)	○			職員も入居者も手洗い・うがいを励行し、外部からの感染を防ぐため、玄関に手指の消毒剤が設置されていた。インフルエンザの予防接種も受けている。	
医療・健康支援 9項目中 計			7	2	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		3. 入居者の地域での生活の支援					
51	90	○ホームに閉じこもらない生活の支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)	○			一日おきに買い物へ出かけたり、海へドライブに出かけたり、入居者が職員に「買ってきてくれ」と頼むときも、「一緒に行きましよう」となるべく外へ出かけるよう工夫している。	
地域生活 1項目中 計			1	0	0		
		4. 入居者と家族との交流支援					
52	94	○家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○			ほとんどの家族が月一回は来訪しており、希望があれば宿泊もできる。面会時間を午前9時～午後6時までと設定しているものの、仕事などの都合で夜間に面会を希望する家族には柔軟に対応している。	
家族との交流支援 1項目中 計			1	0	0		
		IV 運営体制 1. 事業の統合性					
53	96	○責任者の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。	○			法人の理事が月一回以上ホームを訪れ、電話連絡も頻繁にとり、ホーム長や管理者(兼介護計画作成担当者)とコミュニケーションをとり、現場の状況をよく把握している。ホームの機能を地域に還元することや、地域との交流についても積極的に進めたいとしている。	
54	97	○職員の意見の反映 介護従業者の採用、運営方法、入居者の受入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。	○			現場の意見を介護計画に積極的に反映したいという趣旨から、職員アンケートを実施し、一人ひとりの入居者について「どんなケアを心がけてきたか」「どんなケアを目指したいか」、さらに「利用者全体を見据えたケアや行動」などについて職員の考えを詳細に拾い上げている。	
		2. 職員の確保・育成					
55	101	○入居者の状態に応じた職員の確保 入居者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。	○			開設からこれまでに、常勤パート職員の入れ替えが若干見られたが、いずれも家庭の事情である。特に現在のローテーションで不都合はみあたらないとのことだった。	
56	103	○継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。		○		職員が個別に外部の研修を受けた際、発表の機会を設けるなどの努力をしている。全職員を対象にした継続的研修の体制はまだ整っていない。	現場職員はもっと研修を受けたいとの意欲があることから、ホーム側の体制づくりのための具体化が課題と思われる。
57	105	○ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)	○			職員は勤務中に30分間、入居者から離れて、事務所や使用していないリビング、応接室、車の中などで個別に休憩をとっている。悩みや疑問については管理者と日常的に話し合っており、ストレスは特に生じていない。	

項目番号 外部 自己	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
	3. 入居時及び退居時の対応方針					
58	107 ○入居者の決定のための検討 グループホームに適した入居対象者であるか、十分に検討している。(介護保険被保険者証、診断書、入居申請に至る経過、生活や対人関係、入居者・家族の希望等)	○			入居希望があった場合、管理者もしくは看護師が本人や家族と面接し、アセスメントを行った上、現場職員に情報提供して受け入れを決めている。ホーム長が場面ごとのルールを明記した「業務マニュアル」を作成し、透明性の高い運営を目指している。	
59	109 ○退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、入居者や家族に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○			これまでに退去者は一名のみで、家族と同居するための退去だったため、特に問題は生じていない。退去については契約書に該当事例を明記しており、家族との十分な協議が必要との認識もしっかりしている。	
	4. 衛生・安全管理					
60	112 ○ホーム内の衛生管理 ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)	○			台所、洗面所、トイレ、風呂ともに清潔だった。衛生管理チェック表を活用して、各所の除菌・清掃がスムーズに進むよう工夫している。	
61	114 ○注意の必要な物品の保管・管理 薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。	○			台所の刃物は、安全面を考え、入居者の目につかない場所に保管され、洗剤等も入居者の手の届きにくい高い場所に保管されていた。	
62	116 ○事故の報告書と活用 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。(再発防止の話しあい、今後活かす意義づけ等)	○			事故報告書に事故の経過、対応、予防策などが詳細に記入され、全職員が目を通してしている。小さなことでも丁寧に記録が残されており、サービスの改善につなげていきたい意気込みが感じられる。	
内部の運営体制 10項目中 計		9	1	0		
	5. 情報の開示・提供					
63	118 ○調査等の訪問に対する対応 介護相談員や評価調査員等の訪問時には、情報を積極的に提供している。	○			職員の対応も丁寧で、さまざまな点で事実を包み隠さず積極的に情報を提供してくれる。	
	6. 相談・苦情への対応					
64	119 ○相談・苦情受付の明示 相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、入居者及び家族にその利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えている。	○			苦情の受付機関は重要事項説明書に明示されているが、これまでに苦情は一件も出ていない。苦情をサービスの改善につなげようと、苦情処理表も用意されている。	
情報・相談・苦情 2項目中 計		2	0	0		

項目番号 外部 自己	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
7. ホームと家族との交流						
65	122 ○家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に行っている。	○			家族は週一回～月一回の頻度でホームに訪れており、その都度、入居者の近況を伝え、意見交換している。また、ホーム主催のイベント(クリスマス会や納涼会)に家族を招待し、交流を図っている。	
66	123 ○家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、入居者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等)		○		入居者の様子を伝えるのは、家族の訪問時に限られている。	入居者の詳しい様子を伝えていくために、現在、準備しているホーム便りを発行することが期待される。
67	126 ○入居者の金銭管理 入居者が金銭の管理ができない場合には、その代替方法を家族と相談の上定めており、家族に定期的にその出納を明らかにしている。	○			金銭管理が難しい入居者については、家族と相談の上ホーム側が金銭を預かり、レシートを保管し、家族の訪問時に出納を報告している。	
ホームと家族との交流 3項目中 計		2	1	0		
8. ホームと地域との交流						
68	127 ○市町村との関わり 市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。		○		今のところ市町村との関わりはあまりない。今後、市からグループホームの体験学習や施設の開放などの要請があれば、100%協力する意思がある。	市と積極的に係っていくことが望まれる。
69	130 ○地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに来たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。		○		周囲は閑静な新興住宅地で、空き地も点々とあり、人通りが少ないため、地域の人と気軽に交流できるような雰囲気ではない。近くの中学校の体験学習の受け入れや小学校の運動会に参加するなど、積極的に交流する意欲を持っている。	地域の学校との交流等を進めることが必要と思われる。
70	132 ○周辺施設等の理解・協力への働きかけ 入居者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等)		○		職員が気づかぬうちに入居者が外へ出て戻れなくなってしまった場合に備え、警察、消防署との協力関係が十分に築けていない。	警察への協力依頼や、救急救命講習を通じての消防署との協力関係を築いていきたいとしているが、具体化が必要と思われる。
71	133 ○ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、入居者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)	○			中学校の体験学習の受け入れを学校側へ希望している。また、認知症ケアの方法について講習会を開いたり、悩みごとの相談もしていきたいとしている。経営側として地域全体の福祉向上をめざし、積極的にホームの機能を地域へ還元していきたいと展望している。	
ホームと地域との交流 4項目中 計		1	3	0		

※ (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
 (2)「職員」には、管理者及び非常職員を含む。